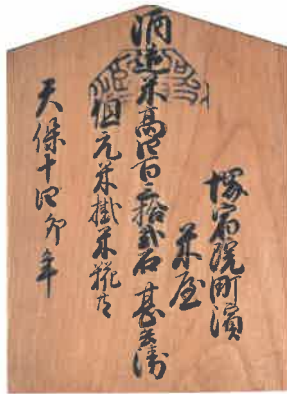




企画展特集

近世堺の豪商 米屋甚兵衛の家業と文化



(表)



(裏)

酒造鑑札【堺市博物館蔵】



清酒醸造所引札(米谷甚三郎)【堺市博物館蔵】

令和7年1月13日(月・祝)まで
さかい利晶の杜 企画展示室にて開催

江戸時代の堺は酒造業が盛んな町でした。江戸時代の堺の産業統計記録によると、元禄8年(1695)に109軒、正徳4年(1714)に73軒、享和3年(1803)に68軒、天保3年(1832)に79軒の酒造業者がいたことが確認できます。彼らは、長崎など遠隔地へ酒を出荷する住吉講と地元で酒を販売する松尾講とに分かれて組織を通じて商いをしていました。明和年間創業の由緒をもち、宿院川尻に店を構えた米屋甚兵衛は、米甚の通称で知られていました。住吉講に入り、長崎や下関へ酒を出荷していました。

江戸幕府は酒造用の米の量を制限しました。酒造には米が使われますが、収穫した米を無制限に使用した場合、深刻な米不足を起こします。堺奉行が天保14年(1843)に米屋甚兵衛に交付した酒造鑑札(図左)によると432石の米を酒造用に消費することを許可していたことがわかります。米屋甚兵衛は、近代以降も米谷甚三郎を名乗って酒造業を営みます。米谷甚三郎名義の明治時代の引札(図右)には、江戸時代以来の米甚を代表する銘柄である清酒「八千世」が前面に推し出されたデザインが用いられています。近世から近代へ連続する堺の酒造業の一端を読み取ることができます。

(さかい利晶の杜学芸員 矢内一磨)

目次	
1 企画展特集	近世堺の豪商 米屋甚兵衛の家業と文化
2 学芸インタビュー	吉田豊 (摂泉郷土史研究所所長)
3 学芸茶話	学芸員のお仕事 梱包・運送編
4 レポート	福岡道雄『静かな前衛』展
ちょっと一息	みて！みて！利晶のここ VR「タイムトリップ堺」の魅力

学芸

インタビュー

吉田豊（摂泉堺郷土史研究所所長）



● 堺の歴史研究の魅力

堺は、広い市域をもつ歴史文化都市ですが、吉田さんは主に旧市域・都市研究についての研究を重ねてこられました。その面白さと魅力はどのようなところにあるのでしょうか。

都市研究が面白いというより、堺・旧市域の歴史研究が面白く、その堺が長い都市の歴史を歩んできたということだと思います。

都市堺が魅力的な時代は、まずは日明・琉球貿易や南蛮貿易の拠点となった室町時代、続いて利休さんの茶の湯が生まれた戦国時代でしょうね。しかしそれだけに留まらず、住吉大社とともに発展した古代・中世の堺、火縄銃や今に続く伝統産業の庖丁など様々な産業活動が安定・繁栄していた江戸時代の堺、そして与謝野晶子に代表される近代の堺など、ほぼ全ての時代について特色がある都市です。

一度も首都や副都、幕府所在地など政治的な中心地になったことのない堺が、なぜここまで長く繁栄できたのか、ちょっと不思議ですね。

なるほど興が深いですね。

次に吉田さんの数多い研究の中でも、近世都市堺の商工業統計の発見は、西洋経済史の角山榮先生や日本近世史の福島雅藏先生などさまざまな分野の先学から高く評価されています。発見の経過とその歴史的意義について、お話しただけでないでしょうか。

● 「産業統計」の発見

堺手鑑（てがみ）がかがみという今でいえば市勢要覧・統計書のようなものが、江戸時代の堺で作られていたことは、昭和初年の『堺市史』にも手鑑2点が掲載されており知られていました。

しかしそれ以外にも10点ほどの堺手鑑が、堺市立中央図書館が所蔵する手書きの「堺市史料」のなかなどにあることはあまり知られておらず、ほとんど注目されていませんでした。

これらの手鑑のなかで7点ほどに、江戸時代堺の産業統計を記した「諸工商諸師」資料が記されています。このなかには省略されていたり一部分しか残っていないものもあるのですが、たとえば延享4年（1747）の資料には1万3000軒余りの家の職業が掲げられています。これは当時の堺の家数の9割以上になります。

これほど大規模な市勢要覧は、江戸・京・大坂の三都や金沢、名古屋などの城下町にも見られないようです。これは、戦国時代の堺会合衆（かいごうしゅう）以来の自治組織が江戸時代も続き、そこが中心になって堺奉行所の求めに応じて、少なくとも江戸時代前期にはほぼ毎年作っていたと私は推定しています（吉田豊「堺近世の産業構造と生業・衣食住」『堺研究』44号、堺市立中央図書館、2022年）。

これは、江戸時代の産業構造が具体的に分かる堺にしか見られない稀有な資料です。ただ、今のところ堺にしか見られない資料であるがゆえに、学術的な比較研究ができないのが残念ではあります。

● ミュージアムを創る

吉田さんは、1980年に堺市博物館、2015年にさかい利晶の杜のたちあげを経験されています。堺の二つのミュージアムの創設に関わられた功績はとても貴重だと思えます。来年で開館10年を迎えるさかい利晶の杜の開館の意義をどのように考えておられますか。

どちらも堺市域を対象にする博物館ですが、百舌鳥にある堺市博物館が扱う範囲が広い博物

館であり古墳に関する博物館でもあるのに対して、さかい利晶の杜は堺環濠都市遺跡に関するサイト（場所・遺跡）ミュージアムであり、利休・晶子ゆかりの地を有する堺旧市のミュージアムとして「千利休・与謝野晶子館」であると考えて、開設準備をしてきました。

11月開催の米屋甚兵衛展も、利晶の杜の敷地にあった酒造業者に関する企画展ですので、サイトミュージアムの展示として意義深いものと思います。

大変な御仕事ですね。摂泉堺郷土史研究所の所長として、堺地域の郷土史についてますます研究を積み重ねておられますが、これからの目標や抱負を教えてください。

歴史研究者にはそれぞれ専門とする時代と分野がありますが、私は郷土史研究者として時代をできるかぎり限定せずに古代から近現代までの堺の歴史文化を、広い分だけ浅くなっているかもしれないですが、これからの調査研究していきたいと思っています。

堺は、本当に魅力のある歴史都市ですからね。



米屋甚兵衛屋敷
（さかい利晶の杜 観光案内展示室・ジオラマ模型）

（令和6年9月26日 さかい利晶の杜にて）

学芸茶話

学芸員って
どんなお仕事をしているの？

〜梱包・運送編



掛軸を梱包している様子。軸本体を和紙で包み、箱の中で動かないようにします。

学芸員のお仕事を紹介する「学芸茶話」シリーズ、今回は文化財の梱包と運送についてご紹介します。

全国の博物館・美術館には、様々な時代・地域で生まれた文化財が保存されています。それらは、収蔵している施設で調査・研究され、常設展や企画展、あるいはインターネット上で、一般に公開されています。

文化財は、時に収蔵館以外の博物館・美術館に借用され、展示されることがあります。その際、文化財を収蔵庫で保管しているそのままの姿にしておくことは出来ません。適切に梱包し、安全に輸送する必要があります。

当然考えなければならぬのは、運送する際に文化財が傷つかないようにすることです。そのために、必ず緩衝材が必要となります。日常生活では、一般的に「プチプチ」と言われるものがよく使われていますね。文化財の梱包には、文化財そのものを薄紙で包んだり、それを柔らかなパッキング材を敷き詰めた箱に入れたりして、輸送中の振動に耐えるようにします。(写真)

さらに、文化財にかかわるうえで気を付けなければならぬことが温湿度です。これは収蔵庫で「保存」する際にも、館内で「展示」する際にも、配慮しなければなりません。特に、日本を含む東アジア地域では、書画の材料として紙や絹がよく使われます。これらは、使い勝手の良い反面、温湿度による影響を受けやすいものです。保存環境が悪いと、文化財そのものが劣化してしまいますので、それを避けねばなりません。湿度を適切に管理し、定期的に修繕もしながら、文化財は生き続けていきます。

運送は、文化財専門の部門を持つ輸送業者があり、博物館・美術館ではお世話になっています。陸上輸送の場合はトラックを使いますが、これも普通のものとは異なります。文化財の輸送に適した装備を持つ「美術品輸送専門車両」、略して「美専車」と呼ばれるトラックが使われます。美専車は、空調の管理はもちろんのこと、資料が傷つかなないように、振動を小さく抑える装置が取り付けられています。また、文化財の移動には学芸員が同乗します。学芸員は、各地の文化財を集めるために、時に全国を駆け回ることもあるのです。

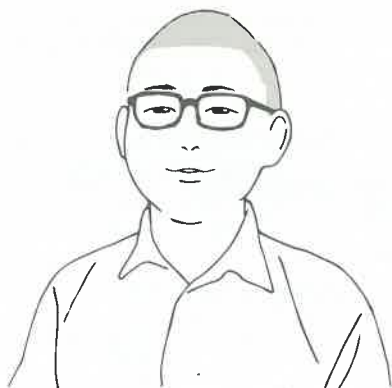
このように、文化財の移動には細心の注意を払います。何かあつてはいけないのですが、何かあつた時のために、実は保険も掛けています。保険があるから安心、というわけでもないのですが、文化財を適切に移動するために、これも必要な手続きなのです。

様々な苦労を経て、文化財は展示施設に到着しますが、そこですぐに蓋を開けるわけではありません。いきなり蓋を開けてしまうと、現地の空気に触れ、文化財が傷んでしまう可能性があるからです。通常は、到着後数日は蓋を開けず、到着した環境に「慣らす」ことを行います。このような手続きを経て、やっと収蔵館以外の博物館・美術館での展示となります。

各地の博物館・美術館に収蔵されている文化財は、様々な流転を経て、その施設に収蔵されることになったものばかりです。

それは時に、制作した作家や、元の収蔵者が住んでいた地域ではなかったりもします。これについては、日本の浮世絵が大英博物館に収蔵されている、あるいはアルフォン・ス・ミュシャ(1860〜1939)の作品を堺市が収蔵している、という例を思い起こしていただければ良いでしょう。

世界中にいる学芸員たちは、それぞれが様々な視点で展覧会を企画し、観覧者の心を豊かにしたいと願っています。その時に、地域を超えて文化財を移動し、一つの会場に並べるといふ作業が必要になるのです。文化財の梱包・運送は、企画展にお越しいただく観覧者には全く見えない部分なのですが、学芸員の仕事において重要な仕事のひとつなのです。



根来孝明
さかい利晶の杜学芸員。
千利休茶の湯を担当。

レポート

福岡道雄「静かな前衛」展

令和5年(2023)の11月15日、彫刻家である福岡道雄氏が逝去されたことを受け、追悼の意を込めて、本展を企画いたしました。堺市内での個展はこれが初めての機会となります。

福岡道雄は1936年に堺に生まれ、1955年に堺市立工業高等学校建築科を卒業。その後大阪市立美術研究所を経て、1958年に白鳳画廊での初個展開催から、2005年に「つくらない彫刻家」を宣言するまでの約半世紀にわたって制作を続け、独自の表現を模索し続けました。

本展では、最初期の作品である『SAND9』及び、代表作である波の彫刻シリーズ『マサンダ池』や、平面にひたすら文字「何もすることがない」等を刻んだ作品群を中心に展示しました。

その中でも、本展において重要な作品である『ブラックバルーン』はこの度、ご遺族により堺市に寄贈いただき、これで堺には時代を超えて二種のバルーンが收藏されることとなりました。60年代、激動の政治情勢に翻弄された若者たちが、「はあ」とついたため息が宙に浮きあがった『ピンクバルーン』。それを基にした『ブラックバルーン』は、



《ブラックバルーン》・《マサンダ池》



《笑うミミズ》



《逃した鮒45センチ》

写真:加納 俊輔

イラク戦争前夜の2002年に制作されています。約40年の時を経て「全く異質な不安と危惧を感じた」と言う福岡の予感、その20年後の現代においても同様に、不穏な黒いため息となつてぶかぶかと浮かびます。

福岡の彫刻作品の特異な点のひとつが、同時代の作家とは一線を画す「弱さ」にあります。制作の合間のへら鮒釣りから着想を得た『逃した鮒45センチ』、庭の草むしりの合間に現れるミミズを題材にした『笑うミミズ』など、か弱く卑近な生き物たちに、かつて健康を顧みずに制作に没頭し、あらゆることに反抗していた自分自身を重ねます。

その一方で、ほとんどの作品を形づくっているFRP(繊維強化プラスチック)は安価で耐久性に優れているという点において、非常にタフな彫刻であるとも言えます。「怯えも悲観も少しも恥ずかしくない」と語る福岡道雄の、弱さと強さ/絶望と希望/優しさと厳しさの二面性が同居した作品の魅力は、これからも時代を超えて受け入れられていくことでしょう。

(さかい利晶の杜運営ディレクター 山本真理彦)

令和6年		令和7年		
11月	12月	1月	2月	3月
11月2日(土)~1月13日(月) 「近世世界の豪商 米屋甚兵衛の家業と文化」展			1月25日(土)~3月2日(土) 「竹工芸のかたち」展	3月15日(土)~さまざまな展示を企画中
	11月20日(水)~3月17日(月) 「元禄の利休顕彰」			
~12月16日(月) 「晶子とふるさと堺」	12月18日(水)~3月17日(月) 能登半島災害復興応援「与謝野晶子・寛の北陸旅行」			
企画展示室	千利休茶の湯館	与謝野晶子記念館		

※ 都合により、展示内容の一部が変更する可能性があります。

みて！みて！利晶のここ VR「タイムトリップ堺」の魅力

歴史環濠VRとは？

VRで、円形のテーブル上に現れる中世の堺のまち並みをご覧ください。

家やお寺の軒を覗き込んだり、人々に近づいたり様々な角度から見る事ができ、大造筋の場面では、テーブルの高さで見て頂くと自分もそこを歩いている気分を味わえます。解説付きで、楽しみながら堺の歴史を見て学ぶことができます。(大人:1400円) さかい利晶の杜の体験型コンテンツ、VR「タイムトリップ堺」について案内役のスタッフさんにお伺いしました。



施設担当者

● どのような方が体験されていますか？

コスタリカやベトナム、台湾など海外の方から、堺在住の方まで、さまざまな場所から訪れたお客様に体験していただいております。

● どんな感想を持たれますか？

テーブルの上に再現される堺の様子を驚きと共に、「南宗寺にいつてみたい」など現存する場所の今と昔を照らし合わせて堺のまちの観光を楽しんでおられるようです。

● おすすめを教えてください。

体験するお部屋の壁3面にある、デジタルサイネージ屏風です。四季折々のデジタルサイネージは、とても見ごたえがあります。ぜひ、実際に体感すべく、利晶の杜へお越しください。



編集後記

利晶学芸だより第10号をお届けします。WEB版のニュースレター「学芸WEB RISHO」と併せてお楽しみ下さい。来年3月、さかい利晶の杜はオープン10周年をむかえます。10周年の特別企画や、晶子関連の企画展を計画中です。

本号編集担当:木下響子(与謝野晶子記念館学芸員)

さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

- 千利休茶の湯館
- 茶の湯体験施設
- 与謝野晶子記念館
- 観光案内展示室

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
TEL.072-260-4386 FAX.072-260-4725
https://www.sakai-rishonogmori.com



開館時間

千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・観光案内展示室・企画展示室
9:00~18:00
※千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 入館は17:30まで
※企画展示室 企画展開催中のみ開室

休館日

千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・茶の湯体験施設・企画展示室
第3火曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
観光案内展示室
年末年始

